

第2章

実践編【小学校】

小学校 性教育に関する主な学習内容

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
生命尊重	「生命の尊さ」(道徳科)					
生物学的側面	心身ともに健康で安全な生活態度の形成 (特別活動・学級活動) ・体の清潔 事例 1 P.42	健康な生活 (体育・保健領域) ・健康な生活 ・1日の生活の仕方 ・身の回りの環境	体の発育・発達 (体育・保健領域) ・体の発育・発達 ・思春期の体の変化 ・体をよりよく発育 発達させるための生活 事例 5 P.50 事例 6 P.54	動物の誕生 (理科) 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 (特別活動・学級活動) ・宿泊行事前の指導 事例 7 P.56 事例 8 P.58	病気の予防 (体育・保健領域) ・病原体が主な原因 となつて起こる病 気の予防 (感染症の予防) 事例 11 P.64	
心理的側面	インカウンター (特別活動) 個性の伸長 (道徳科)					
社会的側面	自分自身の生活や成長に関する内容 (生活) 事例 2 P.44 事例 3 P.46	体の発育・発達 (体育・保健領域) ・異性への関心 事例 5 P.50	心の健康 (体育・保健領域) ・不安や悩みなど への対処 事例 9 P.60	けがの防止 (体育・保健領域) ・身の回りの生活の危 険が原因となつて起 こるけがの防止 (犯 罪被害防止) 事例 10 P.62	心身ともに健康で安全な生活態度の形成 (特別活動・学級活動) ・ネットトラブル 防止等 事例 12 P.66	家族・家庭 (家庭科) 事例 13 P.68
	「友情、信頼」(道徳科)					
	「節度、節制」「相互理解、寛容」「家族愛、家庭生活の充実」(道徳科)					

指導事例 1 からだをきれいにしよう

対象：第1学年

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進すること、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

2 題材設定の理由

児童は、洋服の汚れや手の汚れなどには気付くことができるが、体の内側からの汚れについてはあまり実感がない。本時では、体の内側からの汚れを理解させ、自分の体を清潔にする大切さや自分で清潔に保つ方法を実践させたいと考え、本単元を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価規準
1 本 時	・体の汚れやすい部分に気付き、体をきれいにする方法を考える。 ・体をきれいにしておくための方法を考え、実践する。	・体の汚れやすい部分やきれいにする方法を考え、動作化して確認する。 ・体をきれいにしておくための方法を考え、表現する。	・体をきれいにしておくための自分に合った方法を考え、判断している。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

- ・自分の体の汚れやすいところに気付き、体をきれいにする方法を考えることができるようにする。
- ・自分に合った、体をきれいにしておくための方法を考え、実践できるようにする。

(2) 学習方法

- ・自分の体の汚れやすいところを考え、体の絵に印を付ける。
- ・体をきれいにする方法を考え、絵カードを見ながら動作化する。
- ・これからの生活で、自分の体をきれいにしておくための方法を考え、発表する。

(3) 評価規準

- ・体をきれいにしておくための自分に合った方法を考え、判断している。

(4) 指導上の重点・配慮事項

- ・入浴の仕方は、各家庭によって違いがあるため配慮する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 体の汚れやすい部分について考え、体の絵に丸印を付ける。 ・手 ・足 ・頭 ・顔 ・首 ・わきの下 ・肛門 ・性器	○日常生活を振り返り、考えさせる。 ○体の汚れやすい部分を発表させ、汚れた時の気持ちも発言させる。 ○体の名称を確認しながら、黒板の体の絵に丸印を付ける。 ○体の汚れは外側からだけでなく、内側からの汚れもあることを理解させる。	
展開	からだをきれいにしよう。 2 体をきれいにする方法を考える。 ・入浴 ・歯みがき ・爪切り ・うがい ・手洗い ・トイレの後、きれいにふく 3 入浴、歯みがき、爪切り、うがい、手洗いの仕方等を練習する。		
まとめ	4 自分に合った体をきれいにする方法を考え、発表する。	○これからの生活で、自分の体をきれいにしておくための方法を考え、学習カードに記入し発表させる。	●体をきれいにしておくための自分に合った方法を考え、判断している。

指導のポイント

導入の工夫

- ・体の絵を使用し、汚れる部分を想像しやすくする。

使用する教材等
＜絵カード＞

- ・子供の体
- ・泥だらけになっている子供
- ・入浴の手順
- ・歯みがき
- ・爪切り
- ・手洗い
- ・うがい

配慮事項

下記の内容等について、実態に即して指導する。

- ・体の中には大切な働きをするもの（臓器）がまっている。
- ・汚れた手で触ると、ばい菌が入って病気になることがある。
- ・性器を洗うときは、石鹸を付けすぎたり、強くこすりすぎたりしないようにする。
- ・自分の体も友達の体も大切にする。

指導事例2 自分自身の生活や成長の振り返り

対象：第2学年

教科・領域等：生活科

1 教育課程上の位置付け

生活科 自分自身の生活や成長に関する内容

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

2 単元設定の理由

児童がこれまでの成長を客観的に捉えて自分自身が成長したと自覚することはなかなか難しい。そこで、過去の自分と現在の自分とを比較して、自分の成長を具体的に実感する機会を設定することにより、自分の良さを実感し、支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活してほしいと考え、本単元を設定した。

3 単元計画（18 時間扱い）

次	時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	1 本時	- これまでの自分の成長を思い出したり、聞いたりすることで、できるようになったことが増えたことを実感する。 - 自分の成長を支えてくれた人々の存在について考える。	入学してからできるようになったことを振り返る。	- 自分自身の成長に関心を持ち、できるようになったことなど、自分の良さや得意としていることに気付いている。 - 写真などの具体的な手掛かりを通して、過去の自分と現在の自分とを比較し、心身の成長を実感している。
	2		できるようになったことを友達や家族やお世話になった人からも聞く。	
	3		自分が感じた成長を友達と伝え合う。	
	4		自分の成長を支えてくれた人々について考える。	
2	5	自分の成長や、成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを『わたし物語』（アルバム・巻き物・新聞・すごろく等）に表す。	『わたし物語』の表現方法を考え、選ぶ。	自分の成長を支えてくれた人がいることが分かり、感謝の気持ちを自分なりに表現している。
	6 5 11		自分が選んだ方法で『わたし物語』を作成・準備する。	
	12		『わたし物語』の発表の練習をする。	
3	13 14	『わたし物語』の発表を通して、成長を支えてくれた人からの思いを知るとともに、感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもつ。	『わたし物語』をお世話になった人に発表する。発表についての感想を手紙に書いてもらう。	成長した自分を実感し、それを支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもとうとしている。
	15		成長を支えてくれた人の手紙を読み、自分への思いを知り、感謝の気持ちをもつ。	
4	16	自分への自信と上級学年への意欲や自信をもつ。	3年生にインタビューしたいことを考える。	進級する自分に期待を寄せ、意欲的に生活しようとしている。
	17		3年生の教室を見学し、インタビューをする。	
	18		3年生になって頑張りたいことを考え、単元の振り返りをする。	

4 本時の指導（18 時間中の 1 時間目）

(1) 指導のねらい

- 自分が大きくなったことや、自分でできるようになったこと、役割が増えたことに気付くことができるようにする。

(2) 学習方法

- 入学してからできるようになったことを振り返り、自分の成長や良さについて友達に伝える。

(3) 評価規準

- ・自分が成長したことや、自分でできるようになったことなどが増えたことなどに気付いている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・授業実施前に学年便りや保護者会等で学習のねらいや流れを示し、家庭からの理解と協力を得る。
- ・児童の誕生や生育に関わる事柄を扱ったり、家族へのインタビューを行ったりする際のプライバシーの保護には留意し、各家庭の事情、生育歴や家族構成に十分配慮する。
- ・どの時点から自分の成長の振り返りを実感するかは、児童によって異なるため、第5時からの表現物を作成する際の振り返りの時点については一律に示すものとはしないこととする。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 写真等を見て、入学当初の自分を思い出す。 2 本時のめあてを知る。	○その他の行事等のスナップ写真、入学当初に書いた自分の名前や絵等があれば用意しておく。	
展開	自分の すてきを あつめよう 3 入学してからできるようになったことを思い出して、ワークシートに書く。	○これまでの他の単元で書き残してきた生活科カードなどを用意し、具体的な体験を通してできるようになったことを想起させる。 ○他者への思いやりなど内面的な自己の成長にも気付いている児童がいたら全体に取り上げ、広める。	
まとめ	4 集めた「自分のすてき」を友達に伝え、本時の振り返りをする。 5 次時の活動の見通しを立てる。 【次時の活動例】 ○他の友達に「自分のすてき」を伝えたい。 ○友達から「自分のすてき」を教えてもらいたい。 ○友達に友達の「すてき」を教えてあげたい。	○自分の成長や良さとともに、これまで一緒に学校生活を送ってきた友達の成長やよさについても意識を傾けるようにする。 ○一人一人の児童の思いや願いを実現するために、次時の活動の多様性に対応できるようにする。	●自分が成長したことや、自分でできるようになったことなどが増えたことなどに気付いている。 ワークシート活用例 ・吹き出しの種類は、1種類にして、友達や家の人を書いてもらう吹き出しの色は変える。 ・家庭へ持ち帰らせる場合は、提出期限に余裕をもたせる。

指導のポイント

使用する教材等

- ・これまでの生活科カード以外にも、日頃から、できるようになったことを書きためて保管しておくことで、児童自身が成長を具体的に思い出すことができる。

個人差への配慮、個別指導について

- ・児童の生育歴や家庭環境によっては、個別に対応し、当該児童の心の負担とならない配慮をする。

ワークシート活用例

- ・吹き出しの種類は、1種類にして、友達や家の人を書いてもらう吹き出しの色は変える。
- ・家庭へ持ち帰らせる場合は、提出期限に余裕をもたせる。

大きくった わたし

月 日 () 名前

自分の すてきを あつめよう

1. 自分のすてき（小学校に入学してから 今までで できるようになったこと）を書こう。
2. ともだちにも 自分の すてきを 書いてもらおう。
3. おうちの人にも すてきを書いてもらおう。

あいさつの声が大きくていいね。

かん字をたくさん書けるようになった。

生き物のことに ぐわしくてすごいね。

ごはんをたくさん食べられるようになったところ。

いつも 字が じゃうだね。

お手伝いを自分から やってくれるようになったところ。

大きな声ではっぴょうができるようになった。

きゅう食をのこさずに 食べられるようになった。

だれでも あどびに さぞてくれるところが すてきだね。

けんぱんハーモニカが じゃうになった。

がまんが できるようになった。

あやとびが とべるようになった。

しゅくだいを言われる前に できるようになったところ。

きょうだいにやさしくすることが できるようになったところ。

あしが はやくなった。

ボールをまっすぐけることが できるようになった。

●指導のポイント
友達や家庭の人に書いてもらう吹き出しは、色を変えるとよい。

指導事例3 これからの成長への願いをもつ

対象：第2学年

教科・領域等：生活科

1 教育課程上の位置付け

生活科 自分自身の生活や成長に関する内容

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

2 単元設定の理由

児童がこれまでの成長を客観的に捉えて自分自身が成長したと自覚することはなかなか難しい。そこで、過去の自分と現在の自分とを比較して、自分の成長を具体的に実感する機会を設定することにより、自分の良さを実感し、支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活してほしいと考え、本単元を設定した。

3 単元計画（18 時間扱い）

次	時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	1 本時	- これまでの自分の成長を思い出したり、聞いたりすることで、できるようになったことが増えたことを実感する。 - 自分の成長を支えてくれた人々の存在について考える。	入学してからできるようになったことを振り返る。	- 自分自身の成長に関心を持ち、できるようになったことなど、自分の良さや得意としていることに気付いている。 - 写真などの具体的な手掛かりを通して、過去の自分と現在の自分とを比較し、心身の成長を実感している。
	2		できるようになったことを友達や家族やお世話になった人からも聞く。	
	3		自分が感じた成長を友達と伝え合う。	
	4		自分の成長を支えてくれた人々について考える。	
2	5	自分の成長や、成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを『わたし物語』（アルバム・巻き物・新聞・すごろく等）に表す。	『わたし物語』の表現方法を考え、選ぶ。	自分の成長を支えてくれた人がいることが分かり、感謝の気持ちを自分なりに表現している。
	6 5 11		自分が選んだ方法で『わたし物語』を作成・準備する。	
	12		『わたし物語』の発表の練習をする。	
3	13 14	『わたし物語』の発表を通して、成長を支えてくれた人からの思いを知るとともに、感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもつ。	『わたし物語』をお世話になった人に発表する。発表についての感想を手紙に書いてもらう。	成長した自分を実感し、それを支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもつとしている。
	15		成長を支えてくれた人の手紙を読み、自分への思いを知り、感謝の気持ちをもつ。	
4	16	自分への自信と上級学年への意欲や自信をもつ。	3年生にインタビューしたいことを考える。	進級する自分に期待を寄せ、意欲的に生活しようとしている。
	17		3年生の教室を見学し、インタビューをする。	
	18		3年生になって頑張りたいことを考え、単元の振り返りをする。	

4 本時の指導（18 時間中の 15 時間目）

(1) 指導のねらい

- ・自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもつことができるようにする。

(2) 学習方法

- ・成長を支えてくれた人からの手紙を読み、自分への思いを知り、考えたことを友達に伝える。

(3) 評価規準

- ・自分の成長を支えてくれた人々からの思いを知り、感謝の気持ちやこれからの成長への願いをもとうとしている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・単元導入前には学年便り等で学習のねらいや流れを示し、家庭からの理解と協力を得る。
- ・児童の誕生や生育に関わる事柄を扱ったり、家族へのインタビューを行ったりする際のプライバシーの保護には留意し、各家庭の事情、生育歴や家族構成に十分配慮する。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 前時の活動を振り返る。 2 本時のめあてを設定する。	○児童が『わたし物語』を発表した際の感想を書いてもらえるように保護者等にあらかじめ依頼をしておく。	
展開	手紙を読んで、考えたことを伝えよう。		
	3 お世話になった人からもらった手紙を読む。 4 手紙を読んで、考えたことを友達と伝え合う。	○心を落ち着かせて手紙を読むことができる雰囲気を作る。 ○一人一人の児童が自己肯定感を高められるよう、つぶやきや発言を認めたり励ましたりする。	
まとめ	5 本時の活動を振り返る。 6 次時の活動の見通しを立てる。	○これまでの成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちと、これからも意欲的に生活しようとする児童の発言を全体に取り上げ、共有できるようにする。 ○一人一人の児童の思いや願いを実現するために、次時の活動の多様性に対応できるようにする。 【次時の活動の例】 ○次の学年のことについて知りたい。 ○3年生の教室へ行きたい。 ○3年生にインタビューをしたい。	●自分の成長を支えてくれた人々からの思いを知り、感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもとうとしている。

保護者からの手紙に関する配慮について

- ・「わたし物語」の感想を保護者へ依頼するに当たり、あらかじめ学年便り等でお知らせする。また、その際に作品を持ち帰ってもよい期間を設定する。
- ・保護者からの手紙を児童全員分用意することが困難な場合も考えられる。その場合には、手紙の宛て名を個人ではなく、「2年〇組のみなさんへ」というように学級児童全員に向けて書いてもらう方法もある。

個人差への配慮、個別指導について

- ・児童の生育歴や家庭環境によっては、個別に対応し、当該児童の心の負担とならない配慮をする。

次時の活動を充実させるために

- ・第3学年担任と事前に連携をとって、指導を展開する。

指導事例 4 生命の尊さ

教材「ハムスターのあかちゃん」(出典：わたしたちの道徳 小学校1・2年生)

対象：第1学年

教科・領域等：特別の教科 道徳

1 教育課程上の位置付け

特別の教科 道徳 「D 主として生命や崇高なものとの関わりに関すること」

生命の尊さ 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

2 主題設定の理由

命を大切にし、尊重することは、かけがえのない命をいとおしみ、自らもまた多くの命によって生かされていることに素直に応えようとする心の表れと言える。この時期の児童の発達段階においては、命の尊さを知的に理解するというより、日々の生活経験の中で生きていることのすばらしさを感じ取ることが中心になる。当たり前のことで見過ごしがちな「体にはぬくもりがあり、心臓の鼓動が規則的に続いている」といった、「生きている証」を実感させたいと考え、本単元を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価の視点
1 本 時	・身近な生き物の誕生や成長の様子を考え、命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	・身近な生き物との触れ合いの経験を話す。 ・教材「ハムスターのあかちゃん」を読み、話し合う。 ・自分自身について考える。 ・教師の説話を聞く。	・赤ちゃんの成長から、成長する喜びについて考えることで、自分自身について考えるとともに、命あるものを大切にしようと考えを深めている。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

・身近な生き物の誕生や成長の様子を考え、命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 学習方法

・教材を読み、自分自身のことについて考えたことを友達に伝える。

(3) 評価の視点

・赤ちゃんの成長から、成長する喜びについて考えることで、自分自身について考えるとともに、命あるものを大切にしようと考えを深めている。

(4) 指導上の重点・配慮事項

・家で生き物を飼っていない児童も授業に参加できるように、生き物との触れ合いに関する様々な事例を紹介できるようにしておく。例えば、遠足で行った動物園や、生活科で扱った生き物、学校で飼育している動物などが挙げられる。

(5) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価の視点
導入	1 身近な生き物との触れ合いの経験を話す。 ・生き物と触れ合ったときのことを発表する。	○生き物を家で飼っていない児童も多い。動物園や身近な生き物にも注目させる。	
展開	2 教材「ハムスターのあかちゃん」を読み、話し合う。 ・お乳を飲んでいる生まれたばかりの赤ちゃんへ、話し掛ける。 ・生まれてから 10 日たった赤ちゃんに話し掛ける。	○教師に伝えようとするのではなく、教師が持つ場面絵に対して話しかけるようにする。 ○赤ちゃんの成長とともに愛着がわいてくるような言葉を大切にする。	
	これから大きくなる赤ちゃんに話し掛けよう。		
	3 （親子が描かれている場面絵を見て）お母さんは女の子を見てどう思っているのかについて考える。 4 自分が大きくなったと感じたことを考える。	○ハムスターに話しかけることを通して、あたかも自分のペットであるかのような気持ちになった児童から、優しい言葉を導き出す。 ○「動物はかわいい。」で授業を終わらせることなく、命のすばらしさに注目させる。場面絵を生かし、母の思いに触れて、自分自身にも注目させる。	●赤ちゃんの成長から、成長する喜びについて考えることにより、自分自身について考えるとともに、命あるものを大切にしようと考えを深めている。
終末	5 教師の説話を聞く。 ・児童の成長の話、教師自身が愛情を感じた話、教師の子供への願いなどを聞く。	○4月から「できるようになったこと」に注目させるなど、具体的な内容を伝える。	

指導時期の工夫
・学校で飼育している生き物との触れ合いや、動物園への遠足など、他教科等・行事などに関連させて指導に臨みたい。

個人差への配慮
・見たことや触ったことがない児童のために実物を用意できるとよい。また、写真や動画等とともに、手の中に収まる大きさであることも伝えたい。
・アレルギーに十分気を付ける。

振り返りの工夫
・弟や妹が生まれたときのことなど、児童の意見を広げながら、「人間」の生命のすばらしさにも注目させたい。

終末の工夫
・保護者にグスティチャーとして来ていただき、子供を産んだときや、育てる中で感じた生命のすばらしさについて話してもらうことも考えられる。

指導事例5 大きくなってきたわたし（思春期にあらわれる変化）

対象：第4学年

教科・領域等：体育科

1 教育課程上の位置付け

第4学年 体育科「体の発育・発達」

体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

(ア) 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。

(イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

(ウ) 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること。

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

2 単元設定の理由

性は個人的でデリケートな問題なので、ガイダンスとカウンセリングの観点が重要となる。そのため、「思春期にあらわれる変化」では、学習カードの記述から、児童一人一人の知識理解の様子や疑問、抱えている問題等を捉え、次の授業を修正したり、個別対応をしたりできるように本単元を設定した。

3 単元計画（4時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1 本時	・体は年齢に伴って発育すること、発育の仕方には個人差があることを理解する。	・赤ちゃんのころと比べて、どんなところが育ってきたか考える。 ・「身長」「体重」「手足の大きさ」「学習面の伸び」「運動面の伸び」「心の成長」等、様々な成長に気付く。 ・身長について悩んでいる友達に、どんな言葉を掛けるか考える。	・習得した知識を生かして悩んでいる友達に掛ける言葉を考え、判断している。 ・習得した知識を活かして思春期の体の変化について、先輩への質問を考えている。
2 本時	・思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること、また、その変化には個人差があることを理解する。	・思春期になると、どのような体の変化が起こるのか考える。 ・男女に起こる体の外側と内側の变化について知る。 ・体の変化の起こる時期について考える。 ・先輩である大人に、どのようなことを聞いてみたいか考える。	・思春期の心の変化について、進んで考えたり、発表したりしている。
3 本時	・思春期になると異性への関心が高まり、仲良くしたいという気持ちが強まったり、反発したりすること、また、その変化には個人差があることを理解する。	・児童の実態によって、前時の質問の中から適したものを取り上げ、思春期の体の変化を肯定的に受け止められるように指導する。 ・思春期には、どのような心の変化が起こるか考える。 ・男女協力して、楽しく学校生活を送っていくためには、どのようなことに気を付ければよいか考える。	・知識を活用して、男女協力して楽しく学校生活を送る方法を考え、発言している。
4	・体をよりよく発育させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることを理解する。	・よりよく発育するための運動、食事、休養・睡眠の仕方について知る。 ・自分の体をよりよく育てるための方法を考える。	・学習を生かして、自分の体をよりよく育てる方法を考え、判断している。

4 第1時の指導

(1) 指導のねらい

- ・体は年齢に伴って発育すること、発育の仕方には個人差があることを理解できるようにする。

(2) 学習方法

- ・一人一人に、入学してから4年生までの身長伸びが分かるリボンを渡し、比べる。発育の仕方には個人差があることに気付かせる。
- ・自分の考えを伝え合い、良さをみんなで認め合えるようにする。

(3) 評価規準

- ・習得した知識を生かして、悩んでいる友達に掛ける言葉を考え、判断している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・身長伸びは個人差があり、その人にとって一番いい時期に伸びることを理解させる。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 学習の見通しをもつ。	○「体の発育・発達」について4時間学習することを知らせる。	
展開	わたしたちの体は、赤ちゃんのころと比べて、どのようなところが育ってきたでしょうか。		
	2 「身長」「体重」「手の大きさ」「足の大きさ」「顔つき」「学習面の伸び」「運動面の伸び」「心の成長」などに気付く。 ・実物を通して、自分たちの成長を実感する。	○様々な成長を肯定的に認めながら、気付かせていく。 ○実物大の赤ちゃん人形や赤ちゃん用の服、靴、手袋、帽子などを用意し、自分たちが大きくなってきたことを実感させる。 ○生まれたばかりの赤ちゃんの平均身長である50cmから1年生の平均身長120cmまで、約70cmぐらい伸びたことを示すリボンを提示する。	
	3 自分たちの身長の伸びを比べ合う。	○一人一人に入学してから4年生までの身長伸びが分かるリボンを渡し、比べる。	
	4 個人差について知る。	○4人程度の身長伸びを提示し、体は年齢に伴って発育すること、発育の仕方には個人差があることに気付かせる。	
	成長には個人差がありますが、友達にどのような言葉を掛けますか。		
まとめ	5 習得した知識を活用して、自分の考えを学習カードに書く。	○自分の考えを伝え合い、良さを認め合えるようにする。	●習得した知識を生かして悩んでいる友達に掛ける言葉を考え、判断している。
	6 学習のまとめをする。 ・分かったこと、考えたことを学習カードに書く。 ・次時の見通しをもつ。	○次時の予告をする。	

指導のポイント

導入の工夫

- ・命や体について学ぶ、とても大切な学習であり、冷やかしたり、遊び半分で授業を受けたりしないことを確認する。

使用する教材等

- ・健康カード、学習カード、身長伸びを示すリボン等を準備する。

個人差への配慮

- ・一人一人がかげえのない命であり、体にとって一番望ましい時期に望ましい分だけ成長することを指導する。

5 第2時の指導

(1) 指導のねらい

- ・思春期になると次第に大人の体に近付き、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること、また、その変化には個人差があることを理解できるようにする。
- ・習得した知識を活用し、思春期の変化についての質問を考えることができるようにする。
- ・健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

(2) 学習方法

- ・声変わり、胸のふくらみ、発毛、初経・精通の起こった時期を表すグラフを活用し、思春期の体の変化は、大人になるための準備であること、個人差があること、命がつながっていることを考える。

(3) 評価規準

- ・思春期の体の変化について進んで考えたり、発表したりしている。
- ・習得した知識を生かして思春期の体の変化について、先輩への質問を考えている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・まだ自分のこととして捉えることができない児童にも、これから自分の体に起こることであるという意識をもたせるようにする。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準	指導のポイント
導入	1 思春期の意味と本時のねらいを知る。	○思春期（心も体も、子供から大人に変化する時期）について指導する。		導入の工夫 ・前時の学習カードを紹介し、学習した感想について認め合えるようにする。
展開	思春期になると、どのような体の変化が起こるのでしょうか。 2 グループで話し合い、付箋紙に、できるだけたくさん書き、ボードに貼る。 3 男女に起こる体の外側の変化について知る。 4 男女に起こる体の内側の変化について知る。 5 体の変化の起こる時期について考える。 ・資料「四つのグラフ」を見て、気付いたことを伝え合う。	○大人と子供の横向きのシルエットを掲示する。 ○男女にあらわれる変化を分けさせる。 ○男女に起こる変化について指導する。 ○変化の程度にも、個人差があることについて指導する。 ○卵子と精子の写真を提示し、命のもとが作られていくことを指導する。 ○月経と初経、射精と精通について知る。 ○声変わり、胸のふくらみ、発毛、初経・精通の起こった時期を表すグラフを提示する。 ○思春期の体の変化は、お父さんやお母さんになるための準備であること、個人差があること、命がつながっていることを指導する。	●思春期の体の変化について進んで考えたり、発表したりしている。 ●習得した知識を生かして思春期の体の変化について、先輩への質問を考えている。	使用する教材等 ・付箋紙やホワイトボードを活用し、簡単なブレインストーミングを行う。 個人差への配慮、個別指導について ・まだ自分のこととして捉えることができない児童にも、これから自分の体に起こることであるという意識をもたせるようにする。
まとめ	6 分かったこと・考えたことを書く。 先輩である大人に、どのようなことを聞いてみたいですか。 7 先輩である大人に質問してみたいことを学習カードに書く。	○男女の変化には個人差があるなどの意見をクラスで共有する。 ○保護者や先生に質問したいことを記入させる。男子は男性へ、女子は女性へなど、配慮する		

6 第3時の指導

(1) 指導のねらい

- ・思春期になると異性への関心が高まり、仲良くしたいという気持ちが強まったり、反発したりすること、また、その変化には個人差があることを理解できるようにする。
- ・習得した知識を活用して、異性と協力して学校生活を送る方法を考えることができるようにする。
- ・健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

(2) 学習方法

- ・先輩の話を聞き、思春期の体の変化を理解する。
- ・4年生の実態のグラフを活用し、思春期の心の変化を考える。

(3) 評価規準

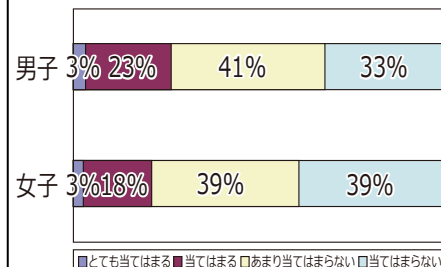
- ・知識を活用して、男女協力して楽しく学校生活を送る方法を考えている。

(4) 指導上の配慮事項

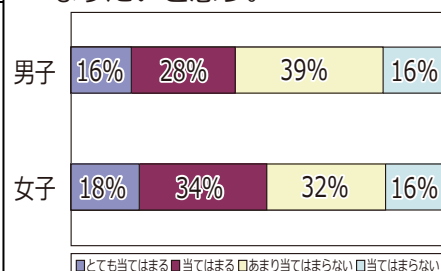
- ・男女別に指導した方がよい実態があれば、個別指導を行う。

(5) 展開

1 異性（いせい）と話すのが、はづかしいと思うときがある。



2 異性（いせい）と仲良くなりたと思う。



段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 前時を振り返り、本時のねらいを知る。	○思春期の意味について指導する。	2 異性（いせい）と仲良くなりたと思う。 男子 16%28%39%16% 女子 18%34%32%16% ■とても当てはまる■当てはまる□あまり当てはまらない□当てはまらない
展開	2 先輩の話を聞く。	○児童の実態によって、前時の質問の中から適したものを取り上げ、思春期の体の変化を肯定的に受け止められるように配慮し、指導する。 ○思春期の体の変化について改めて指導し、確実な理解につなげる。	
	思春期には、どのような心の変化が起こるのでしょうか。		●知識を活用して、男女協力して楽しく学校生活を送る方法を考えている。
	3 資料「4年生の実態のグラフ」を見て、自分の心の変化を考えてみよう。	○「異性と話すのが恥ずかしい。」「異性と仲良くなりた。」「髪型や服装が気になる。」「異性に優しくできないことがある。」の4年生の実態のグラフを掲示する。	
	4 思春期の心の変化について知る。	○思春期の心の変化について指導する。	
みんなで協力して学校生活を送っていくためには、どのようなことに気を付ければよいでしょう。			
まとめ	5 今日の学習のまとめをする。 ・今日の学習で分かったこと・考えたことを学習カードに書く。	○児童の意見の良さを認め、伝え合うようにする。	指導のポイント 導入の工夫 ・前時の学習カードを紹介し、学習した感想について認め合えるようにする。 個別指導 ・質問によって、個別に回答した方がよいもの、男女別に指導した方がよいものがあれば、個別指導を行う。

指導のポイント

導入の工夫

- ・前時の学習カードを紹介し、学習した感想について認め合えるようにする。

個別指導

- ・質問によって、個別に回答した方がよいもの、男女別に指導した方がよいものがあれば、個別指導を行う。

指導事例6 よりよく育つための生活

対象：第4学年

教科・領域等：体育科

1 教育課程上の位置付け

第4学年 体育科「体の発育・発達」

体の発育・発達について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 体の発育・発達について理解すること。

(ア) 体は、年齢に伴って変化すること。また、体の発育・発達には、個人差があること。

(イ) 体は、思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること。また、異性への関心が芽生えること。

(ウ) 体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること。

イ 体がよりよく発育・発達するために、課題を見付け、その解決に向けて考え、それを表現すること。

2 単元設定の理由

性は個人的でデリケートな問題なので、ガイダンスとカウンセリングの観点が必要となる。そのため、「思春期にあられる変化」では、学習カードの記述から、児童一人一人の知識理解の様子や疑問、抱えている問題等を捉え、次の授業を修正したり、個別対応をしたりできるように本単元を設定した。

3 単元計画（4時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・体は年齢に伴って発育すること、発育の仕方には個人差があることを理解する。	・赤ちゃんのころと比べて、どんなところが育ってきたか考える。 ・「身長」「体重」「手足の大きさ」「学習面の伸び」「運動面の伸び」「心の伸び」等、様々な成長に気付く。 ・身長について悩んでいる友達に、どんな言葉を掛けるか考える。	・習得した知識を生かして悩んでいる友達に掛ける言葉を考えている。 ・習得した知識を生かして思春期の体の変化について、先輩への質問を考えている。
2	・思春期になると次第に大人の体に近づき、体つきが変わったり、初経、精通などが起こったりすること、また、その変化には個人差があることを理解する。	・思春期になると、どのような体の変化が起こるのか考える。 ・男女に起こる体の外側と内側の変化について知る。 ・体の変化の起こる時期について考える。 ・先輩である大人に、どんなことを聞いてみたいか考える。	・思春期の心の変化について、進んで考えたり、発表したりしている。
3	・思春期になると異性への関心が高まり、仲良くしたいという気持ちが強まったり、反発したりすること、また、その変化には個人差があることを理解する。	・児童の実態によって、前時の質問の中から適したものを取り上げ、思春期の体の変化を肯定的に受け止められるように指導する。 ・思春期には、どのような心の変化が起こるか考える。 ・男女協力して、楽しく学校生活を送っていくためには、どんなことに気を付ければよいか考える。	・知識を活用して、男女協力して楽しく学校生活を送る方法を考えて発言している。
4 本時	・体をよりよく発育させるためには、調和のとれた食事、適切な運動、休養及び睡眠が必要であることを理解する。	・よりよく発育するための運動、食事、休養・睡眠の仕方について知る。 ・自分の体をよりよく育てるための方法を考える。	・学習を生かして、自分の体をよりよく育てる方法を考え、判断している。

4 本時の指導（全4時間中の4時間目）

(1) 指導のねらい

- ・体をよりよく発育させるためには、適切な運動、調和のとれた食事、休養及び睡眠が大切であることを理解できるようにする。
- ・習得した知識を活用して、自分の生活を改善する方法を考えることができるようにする。
- ・健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

(2) 学習方法

- ・教科書や資料を活用し、体をよりよく成長させるためには、運動、食事、休養・睡眠が大切であることを理解する。
- ・自分の生活の様子を記録したカードを活用し、自分の体をよりよく成長させていく作戦を考える。

(3) 評価規準

- ・よりよく自分の体を育てる生活の仕方について進んで考えたり、伝えたりしている。
- ・習得した知識を生かして、自分の体をよりよく育てる方法を考え、判断している。

(4) 展開

指導のポイント

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 前時を振り返り、本時のねらいを知る。	○前時の質問の中から児童の実態に適したものを取り上げ、思春期の体の変化を肯定的に受け止められるように指導する。	
展開	体をよりよく育てるための生活のしかたを考えよう。		
	2 「健康〇×クイズ」に答え、自分の生活を振り返る。	○「朝ご飯をしっかり食べていますか。」「給食を好き嫌いなく食べていますか。」「外遊びをたくさんしていますか。」「1日60分以上運動していますか。」「早寝早起きをしていますか。」「疲れたら休むようにしていますか。」、の質問に答え、自分の生活を振り返らせる。	●よりよく自分の体を育てる生活の仕方について進んで考えたり、伝えたりしている。
	3 運動、食事、休養・睡眠についてグループに分かれて話し合う。	○クラスの児童を運動、食事、休養・睡眠の三つの課題に分け、1グループ3～4人で話し合わせる。	
	4 よりよく発育していくために「運動」「食事」「休養・睡眠」について、グループからの発表を基に話し合う。	○教科書や資料を活用して運動の仕方、食事の仕方、休養・睡眠のとり方について指導する。	●習得した知識を生かして、自分の体をよりよく育てる方法を考え、判断している。
まとめ	自分の体をよりよく育てていくための方法を考えよう。		
	5 生活カードで自分の生活を振り返り、同じ課題をもつグループに分かれて話し合う。	○自分の生活を改善する方法を考えさせる。	
まとめ	6 学習全体のまとめをする。 ・学習で分かったこと・考えたことを学習カードに書く。	○児童の意見の良さを認め、伝え合わせるようにする。 ○自分が考えた方法を1週間程度実行させ、保護者からコメントをもらうようにする。	

導入の工夫

- ・前時の質問の中から児童の実態に適したものを取り上げ、思春期の体の変化について復習する。

健康〇×クイズ

- 食事
- 1 いつも朝ごはんをしっかり食べています。
 - 2 給食は、好き嫌いなく食べます。
- 運動
- 3 外遊びをたくさんしています。
 - 4 1日60分以上運動しています。
- 休養・すいみん
- 5 早ね早起きをしています。
 - 6 つかれたら、しっかりと休むようにしています。

個人差への配慮、個別指導について

- ・1週間程度、自分の生活の様子を記録するカードを活用し、自分に合った計画を立てさせる。

指導上の留意点

- ・体をよりよく発育・発達させるには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が大切であることを指導する。その際、運動の効果や成長期には特にタンパク質、カルシウム、ビタミンが必要であること、睡眠時に成長ホルモンが多く分泌されるなどの資料を活用すると効果的である。

指導事例7 宿泊的行事前の保健指導（男子編）

対象：第5学年男子

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

2 教材設定の理由

高学年になると宿泊的行事が行われるが、楽しみである半面、思春期に入り、体の変化等について不安を抱えている児童もいる。宿泊的行事前に保健指導を行い、そうした不安に対処する。

男女ともに訪れる思春期の体の変化には性差があり、男女別に実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。

男子の発育も個人差が大きく、性毛の発毛や変声、射精等の男子特有の体の働きなど、成長に伴う悩み等について丁寧に指導し、自他の体の変化を不安なく受け止めさせたいと考え、本単元を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価規準
1 本 時	・男子の体の変化や仕組みを理解し、自らの性についての誤解や不安を取り除くことができるようにする。	・男子の体の変化や仕組みを確認し、体の成長には個人差があることを理解する。 ・宿泊活動時のマナーを考える。 ・大人の体験談などを聞き、不安を取り除く。	・自らの性についての誤解や不安を取り除き、友達の変化についても肯定的に捉えることができる。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

- ・男子の体の変化や仕組みを理解し、落ち着いて思春期を迎えられるようにする。
- ・自らの性についての誤解や不安を取り除き、友達の変化についても肯定的に捉えられるようにする。

(2) 学習方法

- ・男子の体の変化や仕組みを確認し、宿泊活動に向けてのマナーを考える。
- ・大人の体験談を聞くことにより、誰でも不安や悩みに直面することや、心配なことは信頼できる大人に相談することを確認する。

(3) 評価規準

- ・自らの性についての誤解や不安を取り除き、友達の変化についても肯定的に捉えることができる。

(4) 指導上の配慮事項

- ・学校行事の遠足・集団宿泊的行事の前に実施する。
- ・視覚的な情報から興味・関心をもたせ、体の変化に気付き、正しい知識を得られるようにする。
- ・家庭との連携を図るために、指導内容を保護者会や学年便り等で知らせる。

- ・人権教育プログラム（学校教育編）（東京都教育委員会 平成31年3月）のp83からの事例やp163からの参考資料を参照し、性的指向・性自認に係る児童・生徒にきめ細かに対応する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は男性ホルモンの分泌によって、体や心にいろいろな変化が起き、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。	
展開	男子の体の仕組みを確認しよう。		
	2 男子の体の変化や仕組みを確認する。	○4年生で学習した内容を基に、実態に即して男子の第二性徴を確認させる。 ○女子の体の変化にも触れ、女子が受けている指導内容の概要を説明する。	
	宿泊活動時のマナーを考えよう。		
	3 宿泊活動時の入浴等での心構えを考える。	○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化について指摘したりしないことを伝える。	
まとめ	4 教師達の体験談を聞く。	○大人の男性が、体に変化したとき等の体験談を話すことで、体の変化や起こり方は人それぞれで、多くの人が不安や悩みに直面することを伝え、安心させる。	
	5 分かったことや心配なことを確認し、学習のまとめをする。	○多くの男子が悩んでいると思われる内容を取り上げる。 ○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。	●自らの性についての誤解や不安を取り除き、友達の変化についても肯定的に捉えることができる。

指導のポイント

導入の工夫
・4年生の保健学習で学んだことを思い出させる。

使用する教材等
・保健の教科書等を準備する。

個人差への配慮、個別指導について
・深刻な悩みだと考えられるときは、授業後に個別に対応する。

指導事例 8 宿泊的行事前の保健指導（女子編）

対象：第5学年女子

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

2 単元設定の理由

高学年になると宿泊的行事が行われるが、楽しみである半面、思春期に入り、体の変化等について不安を抱えている児童もいる。宿泊的行事前に保健指導を行い、そうした不安に対処する。

男女ともに訪れる思春期の体の変化には性差があり、男女別に実施する指導は、異性を意識することなく、それぞれの不安や戸惑いに直接的に答える指導ができる。

特に女子には、月経時の手当ての仕方やマナー等の指導を重視し、自他の体の変化を不安なく受け止めさせたいと考え、本単元を設定した。

3 指導計画（1時間扱い）

時	ねらい	学習内容	評価規準
1 本 時	- 女子の体の変化や仕組み、月経の役割を理解し、自らの性についての誤解や不安を取り除く。 - 月経時の手当ての仕方を理解する。	- 女子の体の変化や月経の仕組みを確認し、体の成長には個人差があることを理解する。 - 月経時の手当ての仕方や、月経時の生活の仕方等について考える。 - 大人の体験談などを聞き、不安を取り除く。	月経時の簡単な手当てができる。

4 本時の指導**(1) 指導のねらい**

- 女子の体のしくみや特徴、月経の役割を理解し、落ち着いて思春期が迎えられるようにする。
- 月経時の手当ての仕方を理解できるようにする。
- 自らの性についての誤解や不安を取り除き、友達の変化についても肯定的に捉えられるようにする。

(2) 学習方法

- 女子の体の変化や仕組みを確認し、月経用ナプキンの使い方を実践する。
- 女性としてのマナーや、宿泊活動時などの対応について考える。
- 大人の体験談を聞くことにより、誰でも不安や悩みに直面することや、心配なことは信頼できる大人に相談することを確認する。

(3) 評価規準

- 月経時の簡単な手当てができる。

(4) 指導上の配慮事項

- 学校行事の遠足・集団宿泊的行事の前に実施する。
- 視覚的な情報から興味・関心をもたせ、体の変化に気付き、正しい知識を得られるようにする。

- ・月経用ナプキンを使って月経時の手当での仕方を学び、いつでもその場に応じて簡単な手当でができるようにする。
- ・宿泊活動時に限らない、女性としてのマナーやエチケットも指導するようにする。
- ・家庭との連携を図るために、指導内容を保護者会や学年便り等で知らせる。
- ・人権教育プログラム（学校教育編）（東京都教育委員会 平成31年3月）のp83からの事例やp163からの参考資料を参照し、性的指向・性自認に係る児童・生徒にきめ細かに対応する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準	指導のポイント
導入	1 思春期に起こる体の変化について知る。	○思春期は女性ホルモンの分泌によって、体や心にいろいろな変化が起き、子供から大人へ成長していく時期であることを説明する。		導入の工夫等 ・4年生の保健で学んだことを思い出させる。
展開	女子の体の仕組みを確認しよう。			使用する教材等 ・ナプキン数種、ナプキンを入れる袋、月経周期を記入するカレンダーなどを準備する。 ・体の外的変化（性毛や胸のふくらみ等）や体の中の変化（部位名の確認）を準備する。
	2 女子の体の仕組みを確認する。 ・男子の体の変化にも触れ、指導内容の概要を説明する。	○4年生の保健で学習した内容に基づき、実態に即して女子の第二性徴を確認させる。 ○月経は新しい命を作るための体の仕組みで、健康な発育の証であることを理解させる。 ○月経周期などにも簡単に触れる。		
	3 月経の仕組みを知る。			
展開	月経時の手当の仕方を知ろう。			●月経時の簡単な手当ができる。
	4 月経用ナプキンの使い方を知る。	○ナプキンの使い方の説明をする。 ○グループごとに使用させる。 ○様々な種類のナプキンを用意しておき、用途等によって使い分けるとよいことを知らせる。		
	5 宿泊活動時等での対応の仕方を考える。 ・月経時の入浴の仕方 ・月経時には濃い色の洋服を着用 ・下着や布団に経血がついたとき ・ナプキンがないとき	○体の成長には個人差があることを伝え、友達と自分の体を比べて不安になったり、友達の体の変化についてからかたりしないことを伝える。 ○学校で困ったときは、養護教諭や女性の先生に相談するように伝える。		
まとめ	6 教師の体験談を聞く。	○大人の女性が初めての月経の体験談を話すことで、体の変化や月経の起こり方は人それぞれで、多くの人が不安や悩みに直面することを伝え、安心させる。 ○多くの女子が悩んでいると思われる内容を取り上げる。		個人差への配慮、個別指導について ・深刻な悩みと考えられる場合や、詳しい説明が必要な場合は、個別に対応する。
	7 分かったことや心配なことを確認し、学習のまとめをする。	○心配なことや困ったことがあれば、信頼できる大人に相談するよう伝える。		

指導事例 9 不安や悩みへの対処

対象：第5学年

教科・領域等：体育科

1 教育課程上の位置付け

第5学年 体育科「心の健康」

心の健康について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに、簡単な対処をすること。

(ア) 心は、いろいろな生活経験を通して、年齢に伴って発達すること。

(イ) 心と体には、密接な関係があること。

(ウ) 不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があること。

イ 心の健康について、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

不安や悩みを抱くということは誰もが経験することであり、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり、音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりすることなど様々な方法がある。そのため、自分に合った適切な方法で対処できることを理解できるようにするために本単元を設定した。

3 単元計画（4時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・心は、様々な生活経験や学習を通して、年齢に応じて発達することを理解し、心を豊かにする方法を考える。	・1年生の時と5年生の今を比べて、どのように心は変化しているのかを考え、表現する。	・心の健康について関心をもち、学習に意欲的に取り組もうとしている。
2	・心と体は互いに深く影響し合っていることを理解し、心や体の調子が悪いときの対処方法を考える。	・心の変化による体の変化、体の調子による心の変化について考える。	・心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した活動により、考え判断し、それらを表している。
3 本時	・不安や悩みは、誰もが経験することであることを理解し、不安や悩みについての対処の方法を見付ける。	・不安や悩みを抱えたときに、対処方法を考え、様々な対処方法を理解する。	・心の発達、心と体の影響、不安や悩みへの対処について、課題の解決に役立つ事項を理解している。
4	・不安や悩みの対処方法に関心をもち、様々な方法を体験することで、自分に合った対処方法を見付ける。	・不安や悩みの対処の方法を実際に体験し、自分に合った対処の方法を見付ける。	

3 本時の指導（全4時間中3時間目）

(1) 指導のねらい

・不安や悩みについての対処の仕方を考え、表現することができるようにする。

(2) 学習方法

・不安や悩みを抱えた時にどのように対処をしているかを考え、発表し合う。グループの考えを表にまとめることにより、他者との対話を通して、自己の思考を広げたり深めたりする。

(3) 評価規準

・教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・心身の発育・発達著しい思春期には、様々な不安や悩みに直面する場合があるため、事前アンケート等で児童の実態を把握し、配慮が必要な児童を確認しておく。
- ・重大な悩み等を把握した場合は、生活指導主任や養護教諭、スクールカウンセラー等と連携し、早期に対応する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 5年生の不安や悩みを知り、心や体が発達している思春期は、誰でも不安や悩みをもっていることを知る。	○事前にとったアンケートの結果を提示する。 ○異性のことや体の悩みなどで、多くの児童が悩んでいることについて触れる。 ○多くの人が不安や悩みを抱えていることに気付かせる。	
展開	不安や悩みがある場合には、どんな対処法があるだろう。 2 不安や悩みを抱えた時に、自分はどのように対処をしているかを考える。 3 自分の考えた対処法をグループで発表し、カードに書く。 4 実際に対処法をやってみた時にどんな気持ちになったか発表する。 5 いろいろな対処法があることを知る。 6 悩みに気付くことや、対処するために様々な経験をするのは心の発達のために必要であることを知る。	○教師の体験談を例とし、自分はどのように対処しているか考えさせる。 ○対処法のカードをチャート又はグループに分類する。 ○対処法をしてみてもう変わったか考えさせる。 ○自分にあった対処法、又はその時の悩みや不安にあった対処法で乗り越えることができることを伝える。 ○不安や悩みがあるから成長できることも指導する。 ○命に関わるもの、いじめ、犯罪に関わるもの等の大きな悩みや不安は、すぐに信頼できる大人に相談することを確認する。	●教科書や友達の話を基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。
まとめ	7 不安や悩みには様々な対処法があることを確認する。 8 分かったことや実践したいことを書く。	○養護教諭やスクールカウンセラー等から、様々な対処方法について説明する。	

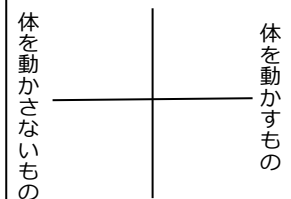
指導のポイント

指導の工夫

- ・養護教諭やスクールカウンセラーと連携を図り、様々な対処法について示すようにする。

ワークシート・板書例
＜チャート＞

大人数でできるもの



一人でできるもの

＜グループ＞



使用する教材等

- ・SOSの出し方に関する教育を推進するための指導資料集「自分を大切にしよう」(東京都教育委員会平成32年)のDVD教材を活用する。

指導事例 10

犯罪被害防止

対象：第5学年

教科・領域等：体育科

1 教育課程上の位置付け

第5学年 体育科「けが（・交通事故・犯罪被害）の防止」

課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア けが（・交通事故・犯罪被害）の防止に関する次の事項を理解する。

(ア) 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

(イ) けがなどの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

イ けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

事故のほとんどは、日常生活における行動や環境の中に要因がある。事故の本当の発生要因を知り、的確な判断をして安全な行動をとったり、環境を整えたりすることの大切さを理解できるよう、本単元を設定した。

3 単元計画（4時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・事故やけがにはいくつかの要因があることを理解し、危険を予測したり回避したりする方法を考える。	・なぜけがをしてしまったのか考える。 ・けがを防ぐ方法を考える。	・けがの防止について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
2	・交通事故を防ぐためには、危険に早く気づき、適切な判断をして、安全な行動をとることが大切であることを理解し、解決方法を考える。	・交通事故の発生の仕方を確認する。 ・交通事故の隠れた危険と回避策について考える。 ・交通事故の防止方法を知る。	・けがの防止について課題の解決を目指して、知識を活用した活動により、実践的に考え、判断し、それらを表している。
3 本時	・犯罪被害を防ぐためには、犯罪が起こりやすい場所を避けることや、すぐに助けを呼ぶことが大切であることを理解し、危険を避ける方法を考える。	・不審者はどのような人か考える。 ・犯罪が起こりやすい場所を知る。 ・犯罪に巻き込まれないために、また、巻き込まれそうになったときに、どうしたらいいか考える。	・交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止等課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
4	・簡単なけがの手当について理解し、状況を判断して実演する。	・けがの場面でどうしたらいいか考える。 ・簡単なけがの手当を実演する。	

4 本時の指導（全4時間中の3時間目）

(1) 指導のねらい

・犯罪被害を防止するためには、犯罪が起こりやすい場所を避けることや、すぐに助けを呼ぶことが大切であるなど、どうすればよいかを考えることができる。

(2) 学習方法

・不審者や犯罪が起こりやすい場所について考え、犯罪に巻き込まれないための方法や、巻き込まれそうになったときにどうしたらいいかを話し合い、グループで共有する。

・犯罪被害防止のための地域の工夫や努力を知り、犯罪から身を守るための方法を表現する。

(3) 評価規準

・犯罪に巻き込まれないための方法や、巻き込まれそうになった時にどうすればよいかを考え、表現している。

(4) 指導上の配慮事項

- ・犯罪に巻き込まれそうになったとき、確実に対処し、自分の身を守ることができるようにする。
- ・他のけがの原因と異なり、犯罪行為はあくまでも犯罪者が悪いという視点に立ち、犯罪被害者にも落ち度があったという受け止め方にならないよう留意する。
- ・セーフティ教室等学校行事と関連させる。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	○教師の支援	評価規準
導入	1 前時までの学習を振り返る。	○前時までの学習を思い出させ、知識の確認をする。	
展開	犯罪被害に遭わないためには、どのようなことに気を付けたらよいか考えよう。		
	2 「不審者」について考える。 ・不審者…誰かに危害を加えるかもしれない人であり、外見では判断できないことに気付く。 3 犯罪が起こりやすい場所について知る。 ・犯罪が起こりやすい場所の特徴を知る。 ・犯罪が起こりやすい場所に近づかないことを理解する。 4 犯罪に巻き込まれないようにするためにはどうしたらいいか、また、巻き込まれそうになったときにどうしたらいいかをグループで考える。 ・ごみをごみ捨て場以外に捨てない。 ・大声を出す。 ・落書きをしない。 ・逃げる。 ・防犯ベルを付ける。 ・複数で行動する。 5 地域での犯罪被害を防止するための工夫や努力を知る。	○不審者はどのような人か、どのように近付いてくるのかを考えさせる。 ○ものを尋ねるなど近づき方は様々であることを理解させる。 ○自分たちの身の回りにある犯罪が起こりやすい場所、入りやすくて見えにくい所、人の目が行き届かない場所、自分が知らない場所や道にも注意するよう伝える。 ○すぐ助けを呼べるように、準備や練習をしておくことが必要であることを伝える。 ○出かける時は、家の人に行先等を伝えることも大切であることを確認する。 ○危険な目に遭ったら、家の人には必ず伝えることを理解させる。 ○地域にある犯罪防止の内容について知っているか聞き、子ども110番の家、防犯パトロール等の具体例を示す。	●犯罪に巻き込まれないための方法や、巻き込まれそうになった時にどうすればよいかを考え、表現している。
まとめ	6 犯罪から身を守るための方法を確認する。 7 今日の学習で分かったこと、実践していきたいことを書く。		

指導のポイント

使用する教材等
 ・犯罪が起こりやすい場所などの絵や写真
 ・学習カード

犯罪が起こりやすい場所などの具体例
 ・公園などのトイレ、建物の非常階段、トンネルなどの暗い所、落書きや不法投棄のある所、エレベーター、駐車場

指導事例 11 感染症の予防

対象：第6学年

教科・領域等：体育科

1 教育課程上の位置付け

第6学年 体育科「病気の予防」

病気の予防について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 病気の予防について理解すること。

(ア) 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わりあって起こること。

(イ) 病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること。

(ウ) 生活習慣病など生活行動が主な要因となって起こる病気の予防には、適切な運動、栄養の偏りのない食事をとること、口腔の衛生を保つことなど、望ましい生活習慣を身に付ける必要があること。

(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、健康を損なう原因となること。

(オ) 地域では、保健に関わる様々な活動が行われていること。

イ 病気を予防するために、課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

2 単元設定の理由

若い世帯で増加している性感染症が課題となっている。発達段階に応じた課題解決の資質や能力を育むために、本単元では、従来の口や鼻からの感染だけではなく、血液や粘膜等を介して感染する病気についても扱うこととした。また、大人でも誤解している人が多いHIV感染症の現在の状況についても理解できるように本単元を設定した。

3 単元計画（8時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを理解する。	・どうして風邪を引くのかを考える。 ・出された意見を「病原体」「生活行動」「環境」の3つに分類する。	・病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こることを理解している。
2 本時	・感染症の意味を理解し、予防法について考える。	・病原体が元になって起こる病気を予防するには、病原体が体に入るのを防ぐことなどが必要であることを理解する。	・病原体が元になって起こる病気を予防するには、病原体が体に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解できる。
3	・前時に習得した知識を活用して、食中毒の予防法を考える。	・食中毒を予防するために調理実習で注意しなければいけないことを考える。	・知識を活用して、これから生活に生かしていきたいことを考えたり、判断したりしている。
4	・生活習慣病の予防には健康に良い生活習慣を身に付ける必要があることを理解する。	・生活習慣病（生活習慣が関係している病気）には、どのようなものがあるか考える。 ・自分に合ったむし歯・歯周病の予防法を考える。	・意欲的に学習に取り組み、インフルエンザの予防法について進んで考え、発表しようとしている。
5	・生活習慣病の予防には、健康に良い生活習慣を身に付ける必要があることを理解する。	・運動、食事、休養・睡眠を中心に自分の生活の仕方を振り返る。 ・健康な生活を実践する作戦を立てる。	・病気を予防するために自分の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現している。
6	・喫煙や飲酒は、健康に様々な影響があること、低年齢では害が大きく、法律で禁止されていることを理解する。	・喫煙や飲酒には、どのような害があるのか考える。	
7	・薬物乱用は、心身の健康に深刻な影響を及ぼすこと、そのため、法律で厳しく禁止されていることを理解する。	・薬物乱用の「乱用」の意味を知り、意見を交換する。	
8	・保健所や保健センター、保健相談所等は、様々な活動を通して、私たちの健康を支えてくれていることを理解する。	・自分たちの健康を守るためにどのような活動が行われているのか考える。	

4 本時の指導（全8時間中の2時間目）

(1) 指導のねらい

- ・病原体が元になって起こる病気を予防するには、病原体が体に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解できるようにする。
- ・インフルエンザの予防法について進んで考え、発表することができるようにする。

(2) 学習方法

- ・感染症の意味について知り、予防方法についてグループで意見交換し考えをまとめる。

(3) 評価規準

- ・病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めておくことが必要であることを理解している。
- ・インフルエンザの予防法について発表しようとしている。

(4) 指導上の配慮事項

- ・HIV 感染症の完全な治療法はないが、薬によってエイズの発症を抑えることができるようになったことなどを指導する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 前時の学習（病気は病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合っていること）を確認し、本時のねらいを知る。	○前時の学習を思い出させ、習得すべき知識を確認する。	
展開	2 感染症の意味を知る。 ・インフルエンザの感染の仕方を知る。	○病原体が体の中に入ることによって起きる病気が感染症であること、入り方には飲食物などに混じって口から入る（食中毒、インフルエンザ等）、空気を介してうつる（麻しん、結核、等）、血液や粘液等を介してうつる（HIV、B 型肝炎、C 型肝炎等）があることを指導する。 ○インフルエンザの感染（飛沫感染、接触感染）、HIV の感染予防について指導する。	●病気の予防には、病原体が体に入るのを防ぐことなどが必要であることを理解できる。
	インフルエンザの予防法を考えよう。		
	3 インフルエンザの予防法をグループで話し合う。 4 出された意見を病原体が体内に入るのを防ぐことと、体の抵抗力を高めることの二つの観点で仲間分けする。	○手洗い・うがい、マスク、適度な温度・湿度、予防接種が有効な予防法であることを指導する。 ○グループで話し合った意見を視覚的に分けやすいようにカードに記入させる。	●インフルエンザの予防法について発表しようとしている。
まとめ	5 今日の学習のまとめをする。 ・これから実践していきたいことを学習カードに書く。	○感染症の予防には、病原体が体内に入るのを防ぐこと、体の抵抗力を高めることが大切であることを確認する。	

指導のポイント

導入の工夫等

- ・前時の学習を確認し、その観点で自分の生活を振り返らせる。

使用する教材等

- ・映像教材等を用意し、児童の理解を促す。

個人差への配慮、個別指導について

- ・インフルエンザの予防法について、一人一人が実践していることや家庭で気を付けていることなどを出し合わせる。

エイズの指導について

- ・HIV 感染症は、薬によってエイズの発症を抑えることができるようになったことなどを指導する。

指導事例 12 軽い気持ちのID交換から・・・

対象：第6学年

教科・領域等：特別活動

1 教育課程上の位置付け

特別活動 学級活動（2）日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

2 単元設定の理由

児童を取り巻くインターネット環境は、年々多様化している。それに伴い、危険な事件に巻き込まれる可能性も増大している。そのため、本授業を1時間だけ行うのではなく、SNS東京ノートを活用した授業と並行して行うことが望ましいと考え、本単元を設定した。

3 単元計画（5時間扱い）

時	ねらい	学習内容	単元の評価規準
1	・同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることに気付く。 ・文字だけで伝えようと、感情が伝わらないので、誤解されやすいことに気付く。	・自分と相手との感じ方の違いを認識する。 ・いろいろな情報を基に相手の気持ちを感じ取っていることに気付く。	・相手の気持ちを考えた行動を考えている。 ・事件や事故に巻き込まれないように、安全に気を付けて行動しようとしている。 ・危険なことは何かをよく考え、トラブルへの対処の仕方を理解し、説明している。 ・自他の感情の伝わり方の違いについて気付いている。 ・インターネットについて理解し、安全に利用しようとしている。
2	・時間や行動に着目して、ゲームやネットの「使いすぎ」について考える。 ・使いすぎないための家庭のルールを考える。	・迷惑になる行為をされた場合と、してしまった場合について考える。 ・家庭でのルール作りを行い、試行する。	
3	・スタンプでも、人によって感じ方が違うことに気付く。 ・メッセージを送る前に気を付けることについて考える。	・文字だけで伝えた場合、感情が伝わりにくいことや、その理由について考える。 ・自分が「おもしろかった気持ち」を伝えようとしたスタンプが、相手に「意地悪な気持ち」として伝わってしまった場合にどんなことが起こるかを考える。	
4	・「公開してもよいと思う写真」には、人や場合によって違うことに気付く。 ・写真の公開におけるネットの特性に気付く。	・写真を公開することによって誰かを傷付けたり、トラブルに巻き込まれたりする可能性について考える。 ・「ネットの特性」を知り、発信する際に気を付けることを考える。	
5 本時	・インターネット上で知り合った人と安易にID交換することの危険性や、安易に写真や個人情報を提供することの危険性に気付かせることを通して、安全にインターネットを利用しようとする。	・情報化社会の新たな問題を考えるための教材を視聴する。 ・解説動画を視聴し、トラブルに巻き込まれてしまった原因について知る。 ・インターネットでやり取りするときに、どのようなことに気を付けたらよいか考える。	

4 本時の指導（全5時間中の5時間目）

（1）指導のねらい

- ・インターネット上で知り合った見知らぬ人と安易にID交換することの危険性や、安易に写真や個人情報を提供することの危険性に気付かせることを通して、安全にインターネットを利用しようとする態度を養う。

（2）学習方法

- ・動画から直接に感じ取れる危険性だけではなく、あまり危険性を感じられない場面でも大きな危険につながる可能性があることを考える。

（3）評価規準

- ・危険なことは何かについて考え、トラブルへの対処の仕方を理解している。

（4）指導上の配慮事項

- ・家庭環境により児童を取り巻く状況が異なるため、より身近な問題として捉えられるようにする。

（5）展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価規準
導入	1 事前アンケートの結果から、インターネット利用の実態を共有する。	○アンケートをまとめ、グラフ化して提示する。 ○個人差が大きいので、知っていることを共有して、学習に取り組めるようにする。	
展開	インターネットでやり取りをするとき、トラブルや犯罪に巻き込まれないようにするにはどのようにしたらよいか考えよう。 2 情報化社会の新たな問題を考えるための教材を視聴する。 【怖いと思った例】 ・相手が小学生だと思ったのに、大人だった。 ・掲示板に写真を貼られた。 ・友達の写真を要求された。 ・写真を悪魔に変えられた。 ・自分の本名を知っていた。 3 トラブルに巻き込まれてしまった原因を考える。 【原因例】 ・簡単に信用したから。 ・簡単にIDを交換したから。 ・写真を送ってしまったから。 ・大人に相談しなかったから。 4 解説動画を視聴し、トラブルに巻き込まれてしまった原因について知る。	○動画から直接的に感じ取れる危険性だけではなく、あまり危険性を感じられない場面でも大きな危険につながる可能性があることに気付かせる。 ○何が危険なことか、なぜ危険に遭遇してしまったのか、遭遇しないためにはどうしたらよいかをそれぞれ理解させる。 ○トラブルへの対処については、自分だけで判断をせず、できる限り早く保護者や学校の先生等に相談することを強調する。	●危険なことは何かについて考え、トラブルへの対処の仕方を理解している。
まとめ	5 これから、インターネットでやり取りするときに、どのようなことに気を付けたらよいか考える。	○学校で話し合ったことや考えたことを家庭でも話し合うように伝える。	

指導のポイント

導入の工夫等

- ・インターネット等の使用状況は個人差が大きいので、事前にアンケートを取り、その結果を提示し、一人一人が自分のこととして学習に取り組めるようにする。

〔調査項目例〕

- ・家庭でインターネットを使うときの機器は何か。
- ・インターネットで危険だと思うことは？
- ・インターネットを使うとき気を付けていることは何か。

使用する教材等

- ・「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」（文部科学省平成26年3月）から動画「教材5 軽い気持ちのID交換から…」を活用して授業を行う。
- ・SNS東京ノート3（小学校5年生～6年生）（東京都教育委員会平成30年3月）を活用する。

指導事例 13 男女の友情

教材「言葉のおくりもの」（出典：小学校読み物資料とその利用 文部省）

対象：第6学年

教科・領域等：特別の教科 道徳

1 教育課程上の位置付け

特別の教科 道徳 「B 主として人との関わりに関すること」

友情、信頼「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと」

2 主題設定の理由

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つである。この時期の児童は、第二性徴が現れるため、異性に対する関心が強まり、これまでとは違った感情を抱くようになる。また、異性間の人間関係も根本的には同性間におけるものと同様に、互いの人格の尊重を基盤としている。異性に対しても、信頼を基に正しい理解と友情を育て、互いの良さを認め、学び合い、支え合いながらよりよい関係を築こうとすることができるよう主題を設定した。

3 指導計画

時	ねらい	学習内容	評価の視点
1 本 時	・異性に対しても正しい理解を基に、信頼し、学び合って友情を深めていこうとする。	・信頼している友達を思い浮かべる。 ・教材「言葉のおくりもの」を読み、話し合う。 ・自己の生活を振り返る。 ・教師の説話を聞く。	・すみ子の言葉のおくりものを聞いた、一郎の気持ちを考えることで、自己の生活を振り返り、異性の友達の良さについて考えを深めることができる。

4 本時の指導

(1) 指導のねらい

・異性に対しても正しい理解を基に、信頼し、学び合って友情を深めていこうとする心情を育てる。

(2) 学習方法

・信頼している友達を思い浮かべ、信頼し、学び合って友情を深めていこうとする心情を自己の生活を通して考える。

(3) 評価の視点

・すみ子の言葉のおくりものを聞いた、一郎の気持ちを考えることで、自己の生活を振り返り、異性の友達の良さについて考えを深めることができる。

(4) 指導上の配慮事項

・発言の一言一句にも配慮し、人権を尊重する態度で授業に臨む。
・人権教育プログラム（学校教育編）（東京都教育委員会 平成31年3月）のp83からの事例やp163からの参考資料を参照し、性的指向・性自認に係る児童・生徒にきめ細かに対応する。

(5) 展開

段階	学習内容・活動	教師の支援	評価の視点	指導のポイント
導入	1 信頼している異性の友達を思い浮かべる。 ・どのようなところを信頼しているのか考える。	○異性の友達が思い浮かばない児童には、学級の中で、信頼している異性に注目させる。		導入の工夫等 ・最初に同性の友達を思い浮かべさせることで、「自分はその友達のどこを信頼しているのか」と自覚させる。
展開	2 教材「言葉のおくりもの」を読み、話し合う。 ・すみ子に、「さっさと帰れ。」と言ったとき、どんな気持ちだったか考える。 ・すみ子に、「怒る相手はたかしさんでしょ。」と言われたとき、どんな気持ちだったか考える。	○教材提示を終えたら、場面絵を黒板に掲示し、発問場面を分かりやすくする。 ○同性の友達だったら言わない言葉を、異性のすみ子に言ってしまった場合について、自己の生活を照らし合わせながら考えさせる。		主題の活用 ・「男女の友情」という主題名を板書することで、本時では異性間の友情について考えるという見通しをもたせる。
	すみ子の言葉のおくりものを聞いたとき、一郎はどんなことを考えたでしょう。	○異性が相手でも、同性と同じように、支え合いながら友情を育んでいくことが大切であることを押さえる。 ○ワークシートなどを使用し、じっくりと考えることができるようにする。 ○様々な考えを発表させ、自分の考えだけでなく、多くの考えがあることに気付かせる。	●すみ子の言葉のおくりものを聞いた、一郎の気持ちを考えることで、自己の生活を振り返り、異性の友達の良さについて考えを深めることができる。	個人差への配慮、個別指導について ・多様な性があることに配慮し、児童の実態に応じて個別指導を行う。
終末	4 教師の説話を聞く。			

